

2012年10月5日

SAAJ NEWS RELEASE

「監査報告書の改善」についての意見書を提出

公益社団法人 日本証券アナリスト協会(会長：稲野和利 野村アセットマネジメント取締役会議長)は、2012年6月に国際監査・保証基準審議会(以下 IAASB)が公表したコメント募集文書「監査報告書の改善」(以下「報告書」)に関する意見書を、10月5日(金)に IAASB へ提出しました。

【意見書のポイント】

- ✓ 「報告書」における提案は、現在の財務報告における監査意見を大幅に改善するものとして評価する。現在の監査意見は基本的に監査結果を適正、不適正に2分するものにしていないが、「報告書」はこれを質量ともに改善し、財務諸表ユーザーが監査対象会社を正しく理解する手がかりとなる。
- ✓ これまで、正常と思われた企業に突然、限定意見が付き、その翌期には倒産してしまうというような例もあった。こうした場合、株価は一挙に暴落し、多くの投資家は適正な価格で売却する機会を失う。「報告書」が提案する形式の監査意見が表明されれば、注意深い投資家はより早期に財務諸表が大きく変化する可能性に気づき、対応できるであろう。
- ✓ 「報告書」が提案する形式の監査意見がネガティブな印象を与える場合、それ自体が株価下落を招くという見方もある。ただし、この下落は企業が突然倒産した場合の株価下落に比べれば、時間をかけた小幅な下落にとどまるだろう。こうしたモデレートな株価調整は資本市場の効率的な価格付けに資するものである。
- ✓ 「報告書」が提案する形式の監査意見を準備するには、コストがかかるという見方もある。しかし、「報告書」は財務報告にない新たな事実の表示を求めているわけではなく、監査の過程で監査人が持った意見の表明を求めているだけである。意見表明に伴う経営者との対話を含めても、追加的なコストは限定されており、監査コストが有意に増加することはないだろう。一方で、「報告書」が提案する形式の監査意見は、上記のように資本市場の効率的な価格付けに資するというベネフィットがある。このベネフィットはコストを大きく上回るだろう。

【添付資料】

資料1：*re: Comments in response to Invitation to Comment on*

"Improving the Auditor's Report"

資料2：「監査報告書の改善」についての意見書

本件に関するお問い合わせは下記まで

日本証券アナリスト協会

電話：03-3666-1577

担当：教育第一企画部長 かいます 貝増 眞